



社長のひとりごと…

わいわい倶楽部は、大切なお客様のために、わたしたち藤本工務店のスタッフがお伝えさせていただきますコミュニティ誌です。

『雪が溶ける。謎も解ける。』

1月を県外で過ごす事になった。2度目である。1度目は23歳の時、長崎県佐世保で2年間を過ごした。若かったせいもあり、仕事をしているのか遊んでいるのか分からないくらいで。良い思い出ばかりである。当時クールファイブの”長崎は今日も雨だった”がヒットした時期でもあり、いつも雨降りかと思いきや、晴天続きで雪などほとんど降らず、長靴をはいた記憶がない。一年を通して仕事がお天気に左右されないため、のんびりしたものだ。人々もほがらかで明るく、夕方になれば手づくりのギョウザで芋焼酎を飲み夕食までの間、世間話に花を咲かせる。そんな変わらないパターンが一年中続くのである。地元(美浜)に帰った時には人々はせかせかとしていて、何と陰気な町なんだろうと本気で思ったものである。土地柄による人柄の違いを痛切に感じた時期でもあった。

今回は親戚のある奈良県。ここも雪はほとんど降らず、晴天の日が多いが、盆地のため底冷えし、手袋をしていても手がしびれるくらいである。昼間ともなれば、お天気の良い日など窓を開けていても丁度いいくらいで洗濯物も普通に干せば乾いてしまうが、良い事ばかりではない。空気が乾燥している中で暖房はエアコン。この歳で、油の切れかかった体では肌がカサカサになり、足のかかとはひび割れて半端なく、ナイフで切り刻んだ様になり、もはや歩ける状態ではない。クリームを塗り、”かかとツルツル”なる商品で養生し、つま先で歩く悪戦苦闘の毎日である。2月に帰る事となったが、ここ2~3日の寒波で雪どけに追われる中に、フッと思った…。寒さが苦になるわけでもなく、雪が嫌いな訳でもない。寒さの中の雪どけでも体が温まり、汗もかき、気分爽快になることを体が記憶しているので寒さの中、外に出る事を拒まない。雪どけをしながら、お隣さんとの会話も今時貴重なコミュニケーションでもある。寒さのきびしい分、春を待つ楽しみや、小さな春を見つける喜びも心にインプットされている。体も心も地元の環境に適應した”寒冷地仕様”になっているではないか！人は皆、ふるさとを恋しがるといってもいい(笑)謎が解けた。

ではまた、来月もお逢いしましょう。
今回も最後まで読んでいただき、



おんがしゅう ございました!!

